

有機エレクトロニクスの世界的研究拠点を擁する山形大学や、全国初の「公益学」を専門とする東北公益文科大学、東北芸術工科大学、県立保健医療大学などの4年制大学をはじめ、県立産業技術短期大学校など、多様な教育機関がものづくり企業を支える優れた人材を輩出しています。

令和7年4月には、山形大学に課題解決型実践人材を育成する教育組織「社会共創デジタル学環」が設置されます。

■大学・短大・高専等（大学院を含む）

(人)

学校名（所在地）	学部・学科名	最終学年	大学院	学生総数※
山形大学（山形市）	人文学部・人文社会科学部	384	53	1,291
	地域教育文化学部	190	42	726
	理学部	258	157	887
	医学部	142	177	945
東北芸術工科大学（山形市）	芸術学部	268	39	2,401
	デザイン工学部	322		
県立保健医療大学（山形市）	保健医療学部	100	33	420
県立産業技術短期大学校（山形市）	デジタルエンジニアリング・メカトロニクス・知能電子システム・情報システム・建築環境システム・土木エンジニアリング・産業技術専攻	106		229
東北文教大学（山形市）	人間科学部	108		448
東北文教大学短期大学部（山形市）	子ども学科・現代福祉学科	110		218
羽陽学園短期大学（天童市）	幼児教育科	82		168
山形大学（米沢市）	工学部（高分子・有機材料工学、化学・バイオ工学、情報・エレクトロニクス、機械システム工学、建築・デザイン、システム創成工学）	754	766	2,748
県立米沢女子短期大学（米沢市）	国語国文学科・英語英文学科・日本史学科・社会情報学科	264		518
県立米沢栄養大学（米沢市）	健康栄養学部	41	5	174
山形大学（鶴岡市）	農学部	181	101	687
東北公益文科大学（酒田市・鶴岡市）	公益学部	249	12	912
県立産業技術短期大学校庄内校（酒田市）	生産エンジニアリング・情報通信システム・IT会計ビジネス	35		69
鶴岡工業高等専門学校（鶴岡市）	創造工学科	本 158		824
	生産システム工学専攻	専 36		
電動モビリティシステム専門職大学	電気自動車システム工学科			5
合 計		3,788	1,385	13,670

※学生総数には大学院生を含まない

■高等学校（工業・情報系）

(人)

学校名（所在地）	学科名	最終学年
県立山形工業（山形市）	機械、電子機械、電気電子、情報技術、建築、土木・化学	222
私立山形学院（山形市）	情報	25
私立山形明正（山形市）	自動車工学、情報機械、自動車工学専攻科	92
県立上山明新館（上市市）	情報経営	31
私立創学館（天童市）	やまがた創造工学	192
県立寒河江工業（寒河江市）	機械、電子機械、情報技術	77
県立村山産業（村山市）	機械、電子情報	37
県立新庄神室産業（新庄市）	機械電気、環境デザイン	40
県立米沢工業（米沢市）	機械、生産デザイン、電気情報、環境工学、建築	165
県立米沢商業（米沢市）	情報ビジネス	27
県立長井工業（長井市）	機械システム、電子システム、福祉生産システム	63
県立鶴岡工業（鶴岡市）	機械、電気電子、情報通信、建築、環境化学	165
私立羽黒（鶴岡市）	機械システム、総合情報、自動車システム	60
県立酒田光陵（酒田市）	機械制御、電気電子、環境技術、情報	114
合 計		1,310

■職業能力開発校

(人)

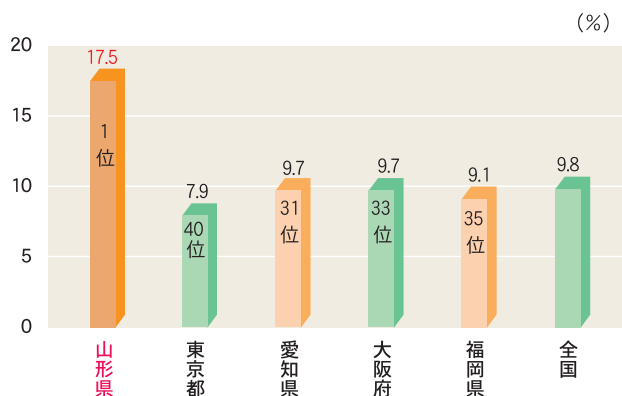
学校名（所在地）	学科名	最終学年
山形職業能力開発専門校（山形市）	自動車・建設技術	46
庄内職業能力開発センター（酒田市）	金属技術	7
合 計		53

※令和5年度「山形県学校名鑑」等、県雇用・産業人材育成課、山形大学

厚みのある人材育成

公立高校全日制募集定員に対する工業科構成比

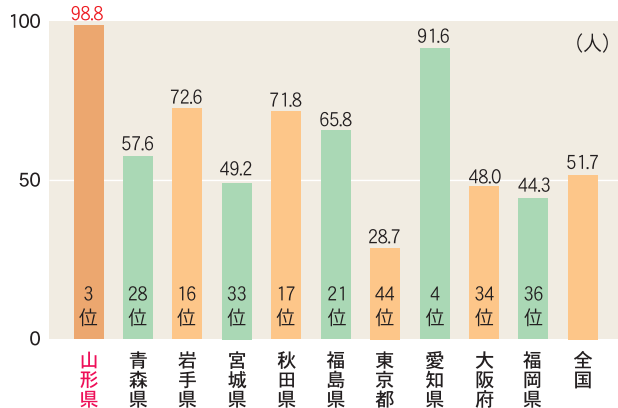
全国第1位 17.5%



資料：他県調べ（平成23年度）

人口10万人当たりの技能検定合格者数

全国第3位・東北第1位 98.8人

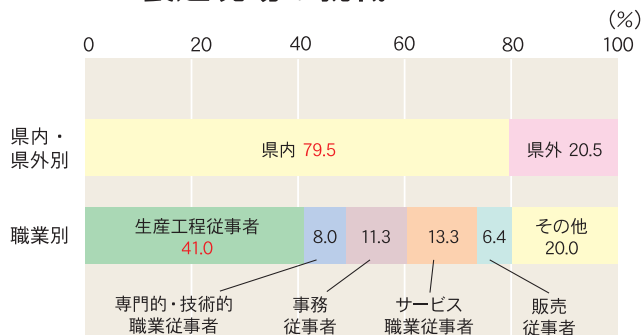


資料：厚生労働省「技能検定実施状況（令和4年度）」より山形県作成

雇用環境データ

高校卒業者の就職状況（令和5年3月）

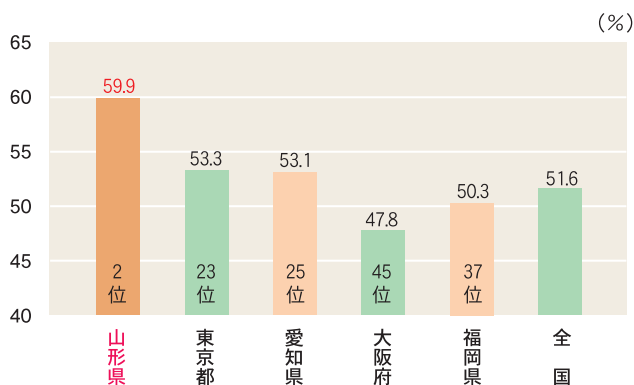
県内就職 79.5%
製造現場の就職 41.0%



資料：「学校基本調査」

共働き世帯率（令和2年）

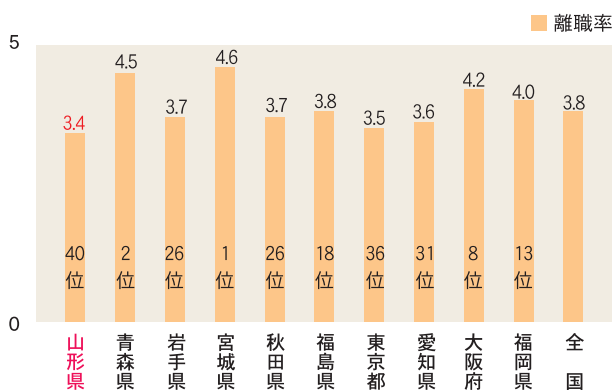
全国第2位 59.9%



資料：総務省統計局「国勢調査」

離職率（令和4年）

全国第7位・東北第1位の低さ 3.4%



資料：総務省統計局「社会生活統計指標」

トピックス やまがたスマイル認定企業制度



「ワーク・ライフ・バランス」「女性活躍」の推進などに積極的に取り組んでいる企業等を“やまがたスマイル企業”として県が認定する制度です。認定により、企業イメージの向上や人材の獲得・定着が期待されます。

産業人材の育成・確保

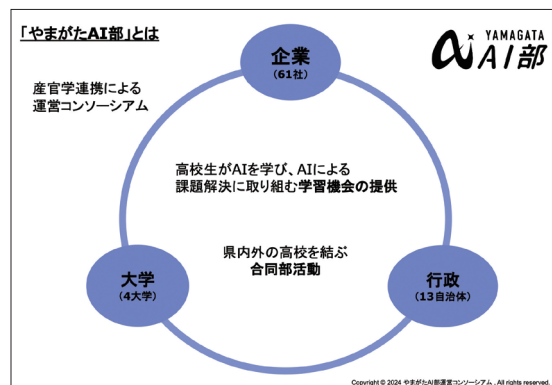
① ものづくりの次世代を担う人材育成

山形県では、地域の高校と産業界、関係行政機関が連携し、ものづくり産業の次世代を担う実践的な技術・技能を備えた人材の育成に取り組んでいます。

やまがたAI部

山形県内の企業・教育機関・自治体が連携して取り組む、AIプログラミング教育を通じた『デジタル人材育成プロジェクト』です。県内の高校生を対象に「部活動」という形式で取り組みをスタートし、デジタル人材の育成を通じて山形県の一人当たりのGDPの向上を目指します。

令和2年に県内11校から始まり、令和6年度は県内34校+県外の高校生に、AIに関する先進技術やデータサイエンス等、質の高い学びを提供しています。さらに、令和5年度オープンした「やまがたAI部公式LINE」を活用し、OB・OG等の参画活動支援においても多様な形で盛り上げていけるよう取り組んでいます。



取り組み① 県内ものづくり企業の視察・実習

やまがたAI部の高校生が県内ものづくり企業の視察を通し、企業における具体的なAI活用方法を高校生が考える機会を設けています。県内4地域の企業に受け入れを依頼し、高校生と各企業の社員とで構成されるグループでワークショップを行います。令和5年度参加した高校生からは「色んなことにAIは挑戦できるとわかり、さらに学びたいと思った」「改めてこういう仕事に就きたいと思った」「企業におけるAIの活用法を間近で見ることができ、とても貴重な体験だった」などの感想が寄せられました。

高校生が県内ものづくり企業の魅力を知るきっかけにもなり、県内就職・定着の足がかりとしての役割も担っています。



取り組み② AI甲子園の開催

やまがたAI部における1年間のカリキュラムで学び得た知識・スキルを活用し、全2種目の競技において各校で競い合います。「第4回やまがたAI甲子園」では、画像認識AIと探究テーマAIの2つの競技で熱戦を繰り広げました。

令和5年度は、参加校増加に伴い本選同様のテーマで予選会を開催。予選を通過した上位16校が本選出場権を獲得し、全2種目の総合点が最も高い高校に最優秀賞が贈られました。多角的視点から採点を行うため、AI・情報教育等に精通した様々な業種の方々審査を行っています。

最優秀賞には愛知県立東海樟風高等学校が選ばれ、トロフィーと賞状が贈られました。



② 企業ニーズに対応したさらなるスキルアップ

山形県では、優れた人材を豊富に育成しているのに加え、企業在職技術者等を対象とした様々な人材育成事業を実施することにより、技術力の更なるスキルアップに努めています。

高度なものづくり人材の育成

成長分野参入促進	電子情報	設計技術	基盤技術
成長分野参入人材育成研修 ①在庫管理 ②生産改善 ③生産管理 ④TWI ⑤現場リーダースキルアップ (一般対象・女性対象) ⑥ものづくり人材(初級) ⑦発想力・思考力強化 ⑧中堅社員	公開講座 ①IoTセミナー ②情報通信技術セミナー	公開講座 ①シーケンス制御入門 ②3次元CAD入門	製造業技術者研修 ①食品の安全管理技術 ②切削加工・研削加工技術 ③金属材料学 ④ノイズ対策の基礎・技術 ⑤プラスチック射出成形技術 ⑥異物解析技術入門 ⑦品質管理 等 公開講座・向上訓練 全72コース 定員合計980名以上 共同研究支援研修

③ やまがた就職促進奨学金返還支援事業

山形県では、将来の担い手となる若者の回帰・定着を目的に、市町村や企業等と連携※した奨学金返還支援事業を行っています。山形県内で居住・就業してから3年経過後に支援を受けることができ、令和5年度までに累計1,958名の方が助成候補者として認定されています。

※県と市町村又は企業等が1/2ずつ出資して支援を行います。

募集枠について

学生の方 支援金額：2万6千円×対象月数（4年制大学の場合最大124万8千円）

【やまがた若者定着枠】支援条件：申請した市町村に居住して山形県内で就業すること

【産業人材確保枠】支援条件：登録企業76社（令和6年8月1日現在）で就職すること

社会人の方 支援金額：県内居住・就業から3年間で返済した奨学金の額（最大60万円まで）

【Uターン促進枠】支援条件：申請した市町村に居住して山形県内で就業すること



④ 山形県と大学等とのUターン就職促進に関する協定

山形県では、山形県内の企業情報等の提供や大学内での就職ガイダンスの開催等について、大学等と連携して取り組むことにより、Uターン就職の一層の促進をはかり、県内企業の人材を確保することを目的として、大学等とUターン就職促進に関する協定の締結を行っています。

令和6年5月22日現在、30大学等と協定を締結しています。

協定締結している学校・締結年月日

●東海大学	H27.8.6	●立教大学	H30.1.24	●関東学院大学	R3.2.17
●神奈川大学	H28.5.30	●帝京大学	H30.2.26	●東京工科大学	R3.3.24
●専修大学	H28.5.30	●帝京大学短期大学	H30.2.26	●日本工学院専門学校	R3.3.24
●大東文化大学	H28.9.28	●明治学院大学	H30.3.8	●日本工学院八王子専門学校	R3.3.24
●日本大学	H28.9.30	●立正大学	H30.8.7	●日本工学院北海道専門学校	R3.3.24
●明治大学	H29.3.2	●拓殖大学	H30.9.18	●東北学院大学	R4.3.7
●国士舘大学	H29.8.25	●立命館大学	H31.3.12	●東北工業大学	R4.4.1
●駒澤大学	H29.11.20	●法政大学	R2.1.21	●東北福祉大学	R4.11.30
●東洋大学	H29.12.19	●千葉商科大学	R2.2.18	●東京農業大学	R5.11.9
●文教大学	H30.1.15	●神奈川工科大学	R2.3.3	●関西大学	R6.5.22

トピックス XR (クロスリアリティ) ってなんだ?

XR (クロスリアリティ) とは、現実の世界とコンピューターで作られた仮想の世界を組み合わせる技術の総称です。例えば、現実の景色や物体にデジタルで作った視覚情報を追加したり、特殊なゴーグルを装着することで完全に仮想の世界に入り込んだり、現実のテーブルの上に仮想のキャラクターが現れて一緒にゲームをしたりといったことが可能となります。

この技術は教育、医療、製造業、不動産などの分野での活用が期待され、生活や仕事を大きく変える可能性を秘めています。トレーニングシミュレーションや仮想教室といった訓練・教育プログラムの提供、遠隔地からの作業手順やトラブルシューティングの指示といった遠隔作業支援システムの導入等への活用が想定されております。

今後山形県では、この技術を活用して産業振興を図るため、人材育成のための高校生・大学生が基礎的なスキルを学ぶセミナーや、大学生・社会人が専門スキルを習得し、これを実際のビジネスへ活用を実践する講習会の開催、製造業やサービス業におけるXR技術の実証事業を行う予定です。

